

2017 年度第 2 回支部集会【北海道支部】

2017 年 7 月 1 日(土)10:30-16:30(受付開始:10:00)

北海道大学 国際連携機構国際教育研究センター2F

主催:公益社団法人日本語教育学会

共催:北海道日本語教育ネットワーク・北海道大学国際教育研究センター

会場:〒060-0815 札幌市北区北 15 条西 8 北海道大学国際連携機構国際教育研究センター2F

交通アクセス:<https://goo.gl/15vMAI>

JR 札幌駅北口より徒歩 20 分, 地下鉄南北線「北 12 条駅」より徒歩 10 分

※ご来場の際は, 公共交通機関をご利用ください。

参加費:500 円(当日会場にて現金でお支払いください)

※[学会ウェブサイト](#)の「マイページ」から事前登録をしていただくと, 事前に口頭発表, ポスター発表の予稿集をダウンロードできます。ぜひ事前登録をご利用ください(予約しなくても当日参加可能)。

◆支部集会日程◆

10:00	受付開始【大講義室 209 前】
10:30-12:00	研究発表(口頭発表)【大講義室 209】
12:00-13:00	昼食休憩
13:00-14:30	研究発表(ポスター発表)【小講義室(1)210】
13:00-14:30	交流ひろば・情報交換会【大講義室 209】
14:50-16:30	パネルディスカッション【大講義室 209】

研究発表(口頭発表)

【10:30-12:00／大講義室 209】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム最終頁, 詳細は予稿集原稿をご覧ください。

- ① 10:30-11:00 交換留学生日本語学習支援クラスにおけるフィールドワークの実践
—スタディ・スキル育成のために—
鈴木美穂(目白大学)
- ② 11:00-11:30 台湾人日本語学習者の日本語意見文における動詞語彙の産出
陳相州(台湾・東呉大学)
- ③ 11:30-12:00 遠隔接触場面における「スピーチレベル・シフト」
—母語話者と非母語話者による日本語グループ討論会話から—
施信余(台湾・淡江大学)



研究発表(ポスター発表)

【13:00-14:30／小講義室(1)210】

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム最終頁、詳細は予稿集原稿をご覧ください。

① 看護記録語彙の使用実態と特徴分析

—看護師国家試験語彙・日本語能力試験語彙との比較を中心に—

林琳(中国・四川理工学院)

交流ひろば

【13:00-14:30／大講義室 209】

※「交流ひろば」は、日本語教育とその関連領域の話題についての参加者相互の情報共有および同じ興味や問題意識を持つ者同士のネットワーク作りを目的としています。審査を経た学会発表ではありません。

◆「レポート作成につながるライティングの指導—説明文作成の教材例と指導のポイント」

二通信子(室蘭工業大学)

私は現在、理工系大学の学部および大学院留学生を対象に、オリジナル教材を使ったライティングの指導に取り組んでいます。今回は学部留学生のために作成中の教材の中から説明的文章の作成に関する部分を取り上げ、教材の目的、指導のポイント、作文課題などについて紹介し、留学生のためのライティング指導について参加者のみなさまと話し合いたいと思います。

◆「地域で行うフリーペーパー作成プロジェクトワーク—秋田と東京における実践例—」

平田未季(秋田大学)、山本真理(関西学院大学)

私達は、留学生が多様な文化的背景を持つ者と交流しながら地域社会が抱える問題の解決を目指すプロジェクトワークを地域の方々と協働で行っています。本実践は、秋田及び東京で行われており、最終目標として地域の魅力を伝えるためのフリーペーパーを作成、地域内外に配布しています。地域に根差した実践に興味をお持ちの方と実践内容や課題について意見交換をしたいと考えています。

◆「学内版 観光ビジネスクラス教科書 改訂試作版 ～さらなる改良を目指して」

伊勢みゆき(新宿日本語学校)、佐伯香奈(同)

観光ビジネスクラスで使用している学内版のオリジナル教科書が作成されてから10年以上経ち、社会状況に合わなくなってきたため、新しく学内版の教科書を改訂、作成することにしました。いろいろな方にアドバイスをいただきたいと思っています。また、観光ビジネスクラス全般の情報交換もできれば、と思っています。ぜひ、いらっしゃってください。



◆「日本語や日本文化との接触が少ない海外の日本語学習者に対して、日本語教師はどんな支援ができるのか」

クラスナイいづみ(サスカチュワン大学)

日本語や日本文化との接触が少ない海外において、日本語を聞いたり話したりする機会はほとんどありません。こうした環境では日本語を使える数少ない場として、教室が大事な役割を果たしています。教師はどのような教室作りを目指し、学習者をサポートしていけばいいのでしょうか。皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

◆「感情表現の使用コンテキストと役割: アニメ・ドラマの分析から見えてきたこと」

安部さやか(ミドルベリー大学)

アニメ・ドラマなど絵や物語性のある素材2作品の分析をもとに、一般に日本語独特で抽象的とされる感情表現の使用例やコンテキストを紹介します。教科書で導入される語彙を対象に、各作品の言語使用や場面設定の特徴、また、それらの素材の効果的な使用法や役割について皆さまと情報交換できればと考えています。

◆「動画作成を課題とした「中級やりとり(運用)」の実践報告」

今泉智子(北海道大学), 水谷圭子(同)

「中級やりとり(運用)」クラスでは、学習の成果物としてミニドラマやアフレコなどの動画を作成し、学期最後に中級1~3レベル合同で発表会を開催しています。実際に学生が作成した動画をご覧いただき、クラス活動としての動画作成について参加者のみなさんと意見交換を行いたいと思えます。

◆「中級理解モードと上級表現モードをつなげる「やさしい日本語」活動」

延与由美子(北海道大学)

読解・聴解を主軸とする中級理解モードでは、日常生活で出会う日本語の概要を理解することを目標としています。一方、上級表現モードでは、相手に合わせた表現の選択が課題です。この両者の学習目標を統合する協働活動として、中級学習者の疑問点に対し上級学習者留学生が「やさしい日本語」で解説する、授業間活動を実施しております。本発表は、その実践報告です。

◆「漢字圏漢字クラスと非漢字圏漢字クラスにおける指導ポイントの相違点と共通点」

阿部仁美(北海道大学), 市川明美(同), 須藤むつ子(同), 富田麻知子(同), 二村年哉(同)

「漢字圏漢字学習者」と「非漢字圏漢字学習者」の問題となるポイントが違うと思ったことはありませんか。それぞれの問題点とその指導ポイントを中心に実践報告をいたします。

◆「学習者ペアによる再話活動」

小河原義朗(東北大学)

同じ素材を読んだ学習者をペアにして、読んで理解した内容を話す再話活動を試みました。興味のある方ぜひお越しください。



情報交換会

【13:00-14:30／大講義室 209】

参加団体：北海道日本語教育ネットワーク
札幌子ども日本語クラブ
市立札幌大通高等学校
秩父別町
CaSA-NPO

北海道内の組織・団体がブースを開いて、お互いの仕事について紹介したり、広報したりして、情報交流を行います。お気軽にご参加ください。

パネルディスカッション

【14:50-16:30／大講義室 209】

「北海道の日本語教育に求められること

～情報共有と今後の活動について考える～

参加団体：室蘭工業大学
公益社団法人札幌国際プラザ
北海道日本語教育ネットワーク
札幌子ども日本語クラブ
北海道大学

北海道内外の日本語教育関係者・組織が集まり、お互いを知り、新たなネットワークを構築する第一歩としたいと考えています。そして現状と課題を共有し、これからの支部集会・活動をどのように活用できるかについて議論します。どうぞご参加ください。

◆問合先(平日 9～18 時のみ)◆

公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F
TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail: shibu@nkg.or.jp



[2017 年度第 2 回支部集会（北海道大学，2017.7.1）発表・口頭①]

交換留学生日本語学習支援クラスにおけるフィールドワークの実践

—スタディ・スキル育成のために—

鈴木美穂

所属先教育機関の交換留学生日本語学習支援クラスでは日本語力向上に加え、スタディ・スキルの向上を目的とした教育実践を行っている。その実践活動のひとつとして「新宿フィールドワーク」を取り入れている。この活動は教室での語学学習形態を離れ、情報収集、現地調査、発表技術などのスタディ・スキルを身につけ学部の講義やゼミに生かしていくことが目的である。学習者は、留学生活をはじめた新宿の中から興味のあるエリアを選んで調査し。実際にそのエリアを歩き、調査したことや体験したことなどについて発表する。活動後のアンケートでは、多くの学習者が情報収集、レポート原稿技術、発表技術が上達したと回答し、語彙の増加が日本語の勉強の役に立ったと答えた学習者も多かった。このことから、この活動がスタディ・スキルと日本語力どちらも身につけることができる機会になっていると考えられる。

（目白大学）

[2017 年度第 2 回支部集会（北海道大学，2017.7.1）発表・口頭②]

台湾人日本語学習者の日本語意見文における動詞語彙の産出

陳相州

ある語彙を知っているとは、語彙の受容知識のみならず、産出もできなければならないと言われている。しかし従来の研究は語彙の受容面に関する研究が多く、語彙の産出面に関する研究は少ない。そこで、本研究では伊集院（2011）の「日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース」を利用し、台湾人日本語学習者が日本語意見文を執筆する際に産出した日本語動詞語彙の実態を明らかにすることを目的とする。本研究の主な調査結果は以下のとおりである。まず、日本語母語話者と比べて台湾人日本語学習者は日本語動詞の産出語彙のレパートリーが少なく、単語親密度の高い語彙を使用する傾向がある。それから、台湾人日本語学習者の使用には漢語の動詞語彙の多用が特徴的である。その中には「中国語漢語二字熟語+する」、「中国語動詞+日本語動詞語尾」といったパターンの誤用が多く観察された。

（台湾・東呉大学）



〔2017 年度第 2 回支部集会（北海道大学，2017.7.1）発表・口頭③〕

遠隔接触場面における「スピーチレベル・シフト」
—母語話者と非母語話者による日本語グループ討論会話から—

施信余

本発表は日本語で行われた 10 回分（計約 10 時間）の遠隔グループ討論会話を分析対象とし、「スピーチレベル・シフト」の観点から、日本語母語話者（NS）と非日本語母語話者（NNS）の討論会話における使用上の特徴を明らかにすることを目的としている。具体的には、施（2015）で取り上げられた討論会話に関わる九つの「調整行動」を NS と NNS が駆使する際の、「スピーチレベル・シフト」の現れ方を、自然会話分析の手法を用いて分析・考察を行った。会話参加者が用いた「調整行動」に焦点を絞り、「デスマス体」を基調とした遠隔グループ討論会話に見られる「ダ体」へのスピーチレベル・シフトを考察した結果、NS、NNS とともに発話内容面の調整においてダウンシフトが生じやすく、また、NNS による使用において、ダ体の使用率の高さや、ダ体に付加する終助詞の種類、急激なスピーチレベル・シフトや不安定なシフトなどに、NS による使用と顕著な相違が現れていた。

施信余 (2015)『遠隔接触場面における調整行動の研究—母語話者と非母語話者による日本語会話の分析—』致良出版社。

（台湾・淡江大学）

〔2017 年度第 2 回支部集会（北海道大学，2017.7.1）発表・ポスター①〕

看護記録語彙の使用実態と特徴分析

—看護師国家試験語彙・日本語能力試験語彙との比較を中心に—

林琳

本発表では中国人看護師（候補者）にとって困難点の 1 つである看護記録作成の支援に繋がる基礎データの構築を目指し、無作為抽出された電子カルテデータ中の SOAP 形式看護記録 1001 件をデータとし使用語彙の傾向を観察した。【調査 1】では SOAP 形式看護記録（述べ語数 51811，異なり語数 2772）を「Web 茶まめ」にて、形態素解析（短単位）を行いその結果を分析した。【調査 2】では、看護師国家試験語彙データベース（奥田 2011）との品詞別比較を行い、さらに【調査 3】では、看護記録語彙に対して日本語能力試験級の判定を行った。看護記録の作成は、患者に適切な医療を提供するための重要な日常的な業務であるにも関わらず、その研究は管見の限り極めて少ない。本発表は、今後ますます増加することが予想される中国人看護師（候補者）を始めとする外国人看護師の円滑な業務遂行を支援するためのカリキュラムや教材の開発の基礎的なデータになると期待できる。

（中国・四川理工学院）

